

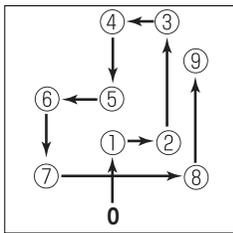
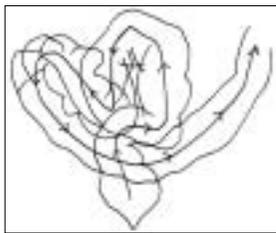
撮影・読影のポイント

- ・バリウムの流れを把握したうえで下行結腸からバリウムが落ちてこないように体位変換を行う。
- ・S状結腸の重なりが多い場合は、圧迫を加えてブラインド部分の腸管を解離させるとよい(下図参照)。

一口メモ バリウムの移動方法

バリウム(液体)は上方から下方へ、空気(気体)は下方から上方へと移動する原則の応用のみである。要は腸管の走行方向へ体位変換をすればよい。たとえば、右側と思って右側臥位をとらせても、バリウムが右側へ行かない場合は左を向けてみるなど、柔軟に考えることが大切である。要は、右か左か、透視台を起こすか倒すかの4通りのパターンの組み合わせである。

頭を下げながら左側臥位()にして、さらに頭を下げて正面に戻し()、右側臥位()にしなから、透視台を少し起こして正面に戻し()、もう一度右側臥位()をとらせながら、さらに透視台を起こして()、バリウムが下方へ行くのを確認して、正面位から左側臥位()へとしてバリウムを左側へ進め、かつ透視台を水平から逆傾斜させて、バリウムを下行結腸()へと進める。



通常像



圧迫像